

Autodesk Revit アドインソフト

B-LOOP for Revit

操作マニュアル

2025 年 9 月
株式会社イズミコンサルティング

目次

基本的な操作手順	4
Revit から B-LOOP に連携する	4
B-LOOP で編集可能なデータに変換する	5
SeACD2 で機器選定する	5
B-LOOP から Revit にデータを戻す	6
機能説明	7
起動方法	7
Revit リボンメニュー	8
データ出力	9
空間モデル	9
フェーズ	11
レベル	12
部屋境界	14
出力ファイル	16
B-LOOP データをインポート	17
事前準備	17
ファイルの選択	22
インポート項目	24
ツール	29
共有パラメータの追加更新	29
部屋・スペースからエリアに「名前」「番号」を追加	30
rfa ファイルのアップデート	35
その他の画面	39
オプションダイアログ	39
最新版の更新情報ダイアログ	44

更新履歴	45
バージョン情報ダイアログ	45

基本的な操作手順

B-LOOP for Revit の流れは、以下の通りです。

Revit から B-LOOP に連携する

[機能を有効にする]を行います。

- ライセンス認証を行い、アドインを使用可能にします。

※ Revit 起動後に一度だけ行います。

出力データの保存先を設定し、
[データ出力]します。

- Revit モデルを B-LOOP で読み取可能なデータ (.rblp) に変換します。

※ .rblp 拡張子ファイルの内容は json 形式です。JavaScript Object Notation (.json) は、人間が読めるテキストであり、アプリ間のデータ交換などによく使用されるデータ形式の一種です。

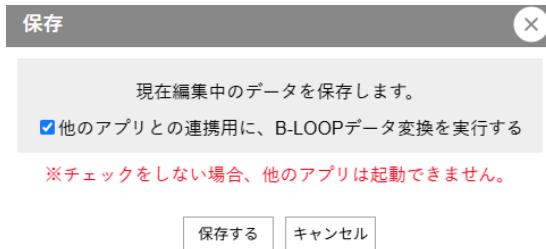
出力した rblp データを
B-LOOP ポータルに
読みませます。

- 上記で出力したデータファイルを B-LOOP ポータルからアップロードします。

B-LOOP で編集可能なデータに変換する

CADECT を開き
B-LOOP データを保存します。

- ・アップロードした物件で室を確認します。
- ・保存時の画面で以下に団を入れ、B-LOOP データを保存します。
団 他アプリとの連携用に、B-LOOP データ変換を実行 します。



⇒保存完了後、各アプリで操作可能となります。

SeACD2 で機器選定した結果を Revit に返す場合、次の「SeACD2 で機器選定する」手順に進んでください。
その他ソフトの内容のみ Revit に返す場合、「B-LOOP から Revit にデータを戻す」の手順に進んでください。

SeACD2 で機器選定する

SeACD 2 で
機器選定をします。

- ・ポータルから SeACD 2 を開きます。
- ・SeACD 2 の機能を用いて、機器を選定します。
- ・SeACD 2 を閉じ、機器選定データを保存します。



B-LOOP から Revit にデータを戻す

B-LOOP ポータルから
blpr データを
ダウンロードします。

- SeACD2 で配置した機器情報を含んだ B-LOOP for Revit で読み取可能なデータ (.blpr) に変換します。
- ※ .blpr 拡張子ファイルの内容は json 形式です。JavaScript ObjectNotation (.json) は、人間が読めるテキストであり、アプリ間のデータ交換などによく使用されるデータ形式の一種です

出力したデータを B-LOOP for
Revit に読み込みます。

- SeACD2 で選定した機器が配置されます。
詳細は「[B-LOOP データをインポート](#)」の 項をご確認ください。

機能説明

起動方法

B-LOOP for Revit は、Revit のアドインです。Revit を起動してご利用ください。

機能を使用するときは、Revit リボンメニュー内[IzumiTools]タブの[B-LOOP for Revit]パネルより操作します。

まずは、[機能を有効にする]ボタンで、アドインを使用可能にします。



Revit リボンメニュー

ここでは B-LOOP for Revit の動作に関わる Revit リボンメニュー内の各機能について説明します。

Revit リボンメニューより[IzumiTools]を開くと、B-LOOP for Revit の各機能が利用できます。



項目	説明
[データ出力]	[データ出力]画面を表示します。
[B-LOOP データをインポート]	B-LOOP ポータルの [Revit] > [DL] から出力した blpr ファイルを読み込みます。以下のケースで利用します。 <ol style="list-style-type: none">STABRO の負荷計算結果をスペースパラメータに反映させる場合SeACD2 の機器情報を Revit のスペースに配置させる場合
[ツール] -[共有パラメータの追加、更新]	Revit の建物モデル内の各スペースに負荷計算の計算条件、および計算結果の負荷値などを格納するための共有パラメータを追加します。
[機能を有効にする] /[機能を無効にする]	B-LOOP for Revit の機能について、有効／無効を切り替えます。 [機能を有効にする]: B-LOOP for Revit の機能を有効にします。（ライセンスを使用します。） この操作をすることで、[データ出力]などの B-LOOP for Revit 機能や、更新アップデートの確認が使用可能になります。 [機能を無効にする]: B-LOOP for Revit の機能を無効にします。（ライセンスを解放します。） B-LOOP for Revit の機能は使用せず、Revit での操作を継続することができます。
[オプション]	オプションダイアログを開きます。 オプションダイアログでは B-LOOP for Revit の動作に関する各種設定を行います。 詳細は「オプションダイアログ」を確認してください。
[オンラインマニュアル]	B-LOOP サービスのオンラインマニュアルを表示します。
[バージョン情報] -[バージョン情報]	バージョン情報ダイアログを表示します。 バージョン番号やライセンス情報を確認できます。
[バージョン情報] -[更新履歴]	過去バージョンから現バージョンまでの更新内容が確認できます。
[バージョン情報] -[最新版チェック]	最新版プログラムがリリースされているかを確認できます。

データ出力

データ出力では、現在表示されている Revit 建物モデルのデータを rblp 拡張子ファイルで出力します。



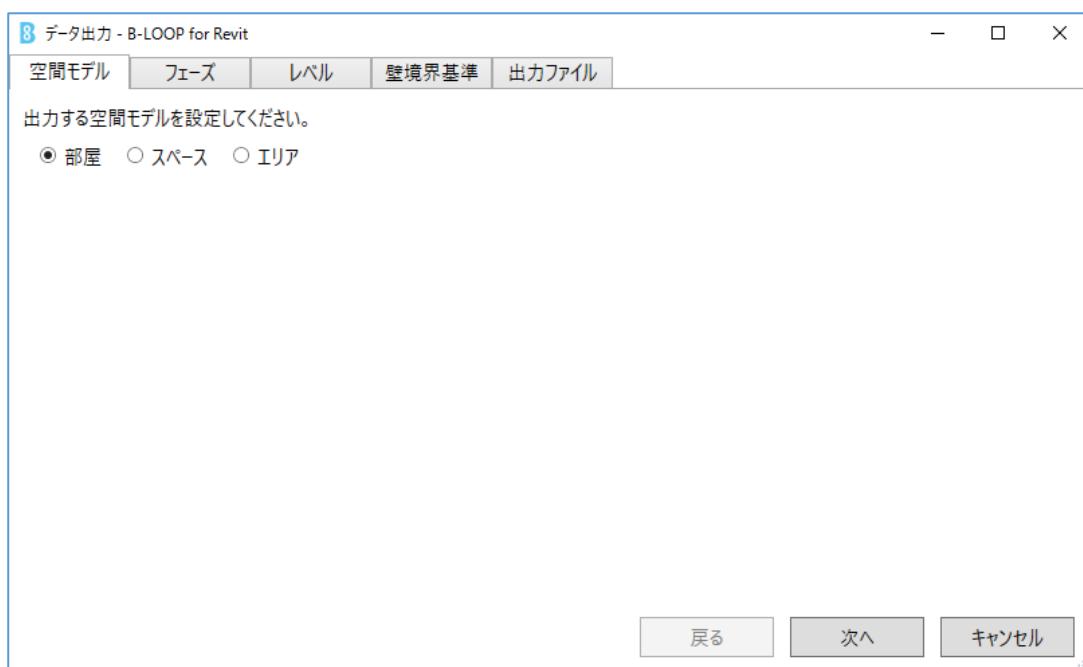
データ出力を行う場合は、[B-LOOP for Revit]パネルから[データ出力]を選択し、表示される画面で進めます。

空間モデル

CADECT でモデルを立ち上げに使用する Revit モデルを選択します。部屋/スペース/エリアから選択します。

・部屋を選択した場合

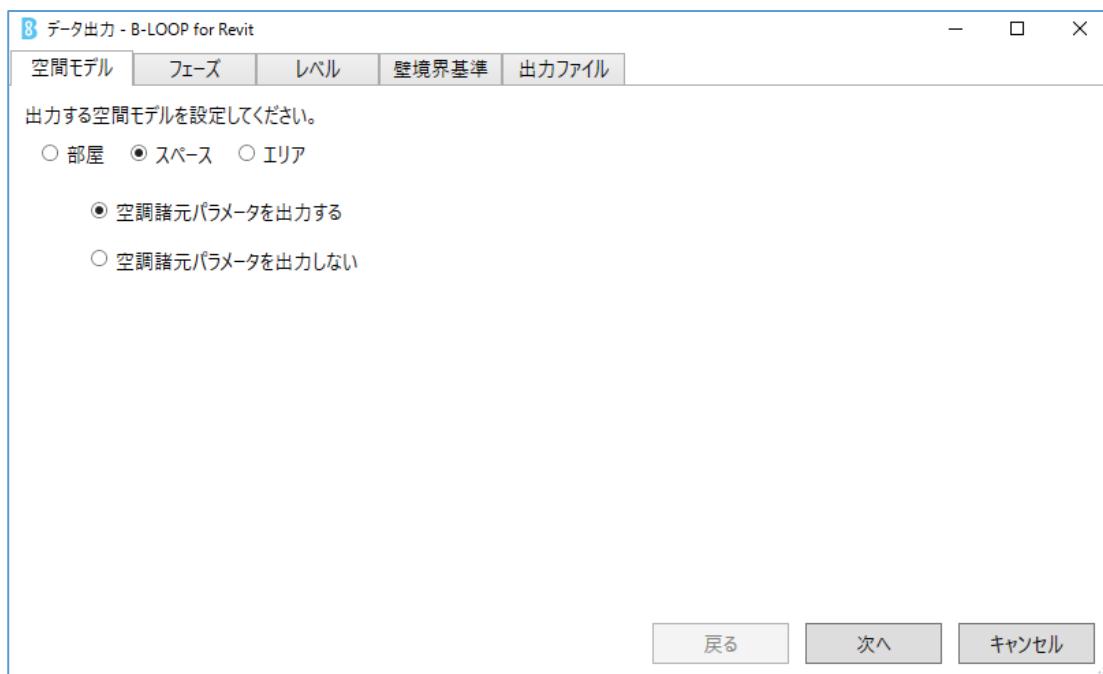
部屋のジオメトリーを基に CADECT でモデリングを行います。



・スペースを選択した場合

スペースのジオメトリーを基に CADECT でモデリングを行います。

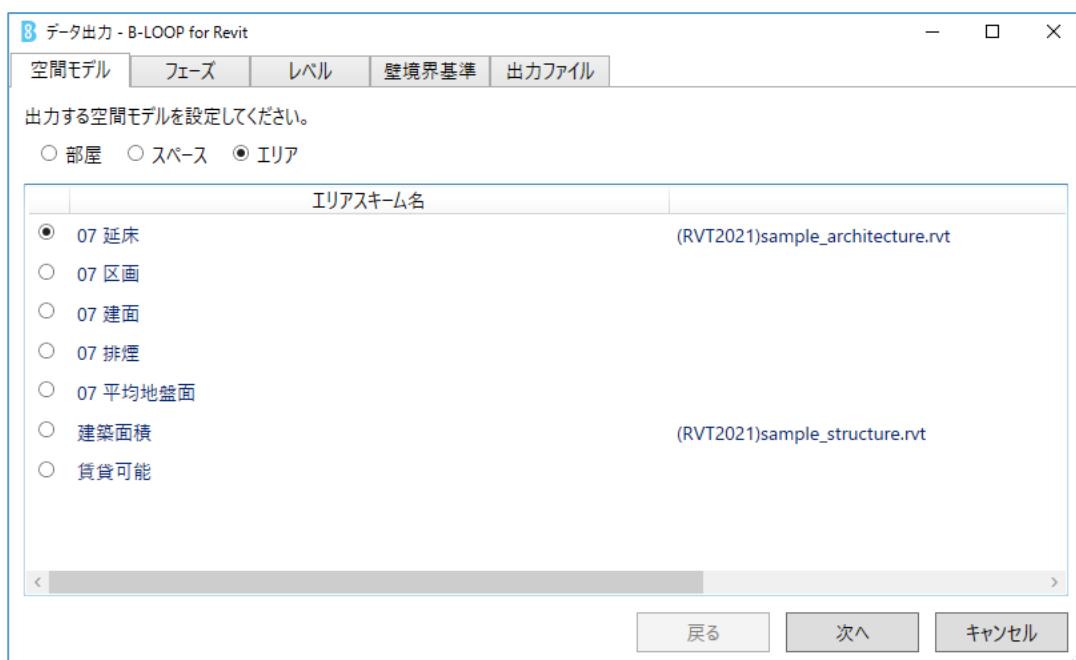
スペースの共有パラメータの設定値を CADECT や連携ソフトで使用するか選択できます。スペースのどの共有パラメータが連携されるかは、[B-LOOP Revit モデリングガイド](#)を参照してください。



・エリアを選択した場合

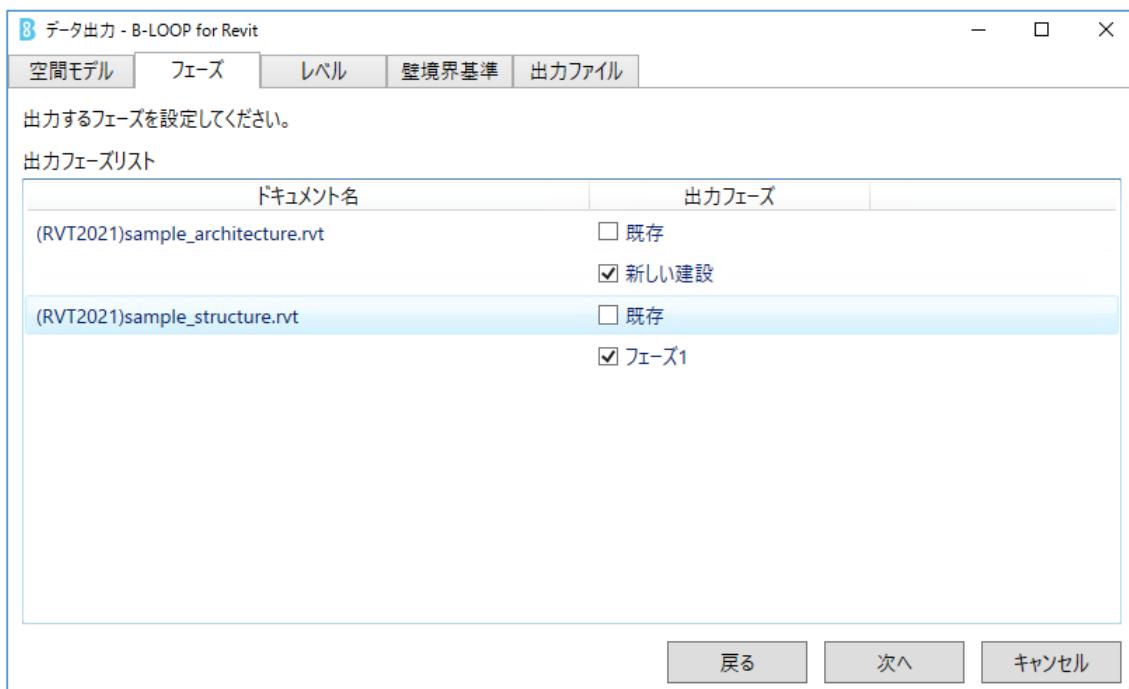
エリアのジオメトリーを基に CADECT でモデリングを行います。

エリヤスキームを選択します。



フェーズ

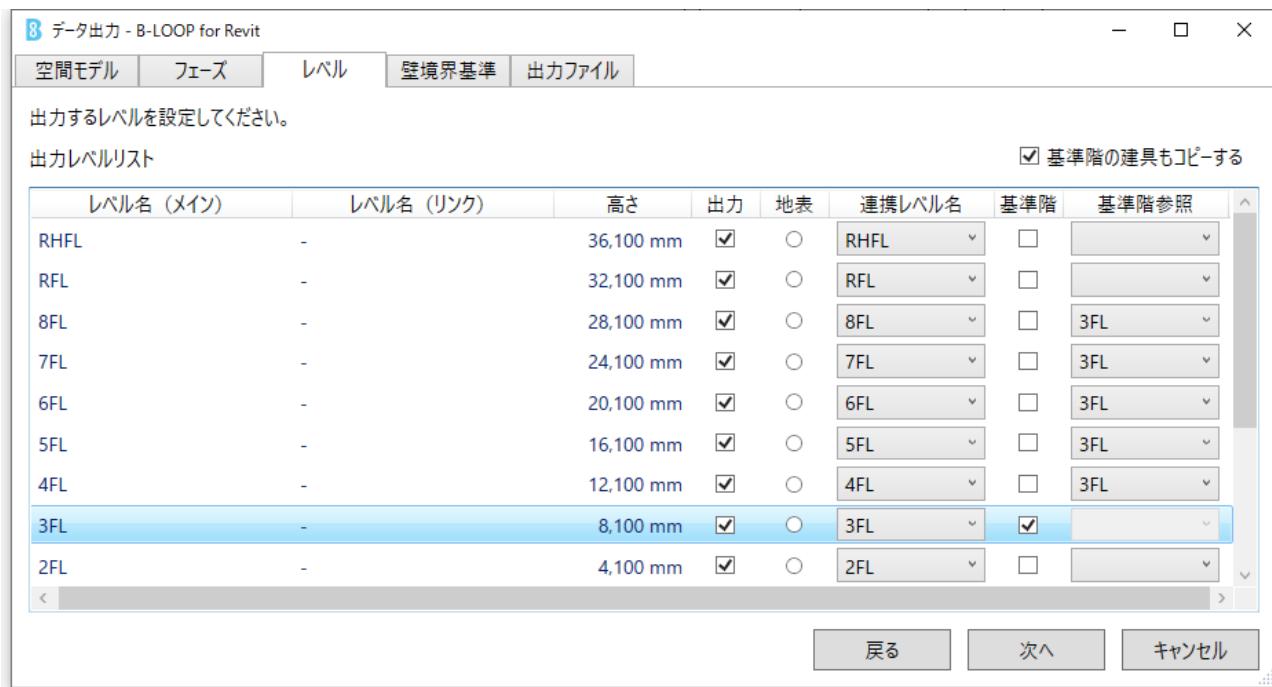
Revit ドキュメントごとに出力するフェーズを設定します。



項目	説明
[ドキュメント名]	Revit のドキュメント名を表示します。
[出力フェーズ]	出力するフェーズを選択します。 デフォルトで選択されているフェーズは、最後のフェーズです。
[戻る]	フェーズタブでは、常に無効です。
[次へ]	次のタブに移動します。
[キャンセル]	画面を終了して Revit 画面に戻ります。

レベル

Revit レベルと連携先の階の関係性を設定します。



項目	説明
[レベル名 (メイン)]	メインドキュメント内で同じ高さのレベル名をまとめて表示します。
[レベル名 (リンク)]	リンクドキュメント内で同じ高さのレベル名をまとめて表示します。
[高さ]	レベルの高さを表示します。
[出力]	該当レベルを連携先で階として扱うかどうかを設定します。
[地表]	連携先の地上階・地下階を判別するための地表レベルを指定します。 連携先では地表レベルの高さ以上であれば地上階、未満であれば地下階として扱います。
[連携レベル名]	同じ高さのレベルが複数存在した場合、連携先のレベル名を指定します。
[基準階]	共通階を設定する際、自分が基準となる階であることを宣言します。 ※. [基準階参照]とは排他的な設定項目になります。
[基準階参照]	共通階を設定する際、参照先の[基準階]を選択します。 連携先では指定した基準階から壁、空間領域をこの階にコピーします。 【一括指定】を選択すると、直下の基準階の上階からこの階までが全て直下の基準階を参照することとなります。 ※. [基準階]とは排他的な設定項目になります。
[建具もコピーする]	共通階を設定する際、基準階の建具もコピーするかどうかを指定します。 チェック On の場合、連携先では基準階から基準階参照の階に建具をコピーします。 チェック Off の場合、連携先では基準階参照の階自身の建具を連携します。

項目	説明
[戻る]	前のタブに戻ります。
[次へ]	次のタブに進みます
[キャンセル]	画面を終了して Revit 画面に戻ります。

同じ高さのレベルが複数存在した場合の挙動について

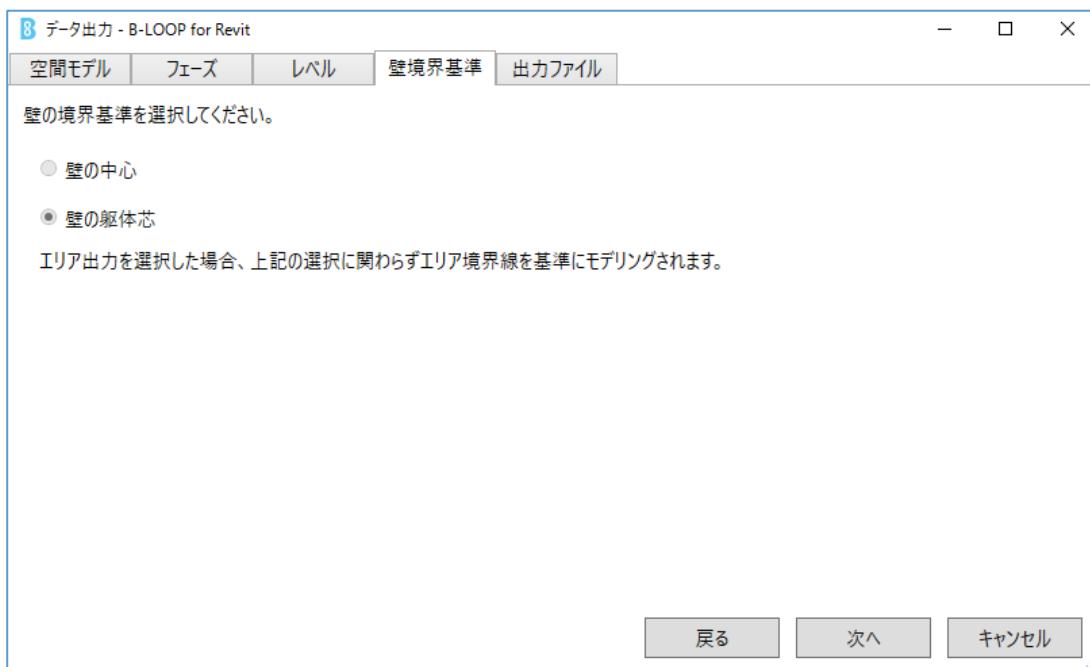
レベル名 (メイン)	レベル名 (リンク)	高さ	出力	地表
ENTFL(=13.85)	-	13,850 mm	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
申請建物平均GL=13.79	-	13,790 mm	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
本棟平均GL(=13.77)	-	13,770 mm	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
申請建物平均GL=13.77				
設計GL(=13.75)				
ゴミ置場FL(=13.75)	-	13,750 mm	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
ゴミ置場平均GL(=13.75)	-			
申請建物平均GL=13.75				
申請建物平均GL=13.74	-	13,740 mm	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
申請建物平均GL=13.72	-	13,720 mm	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
標高0	-	0 mm	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="radio"/>

同じ高さのレベルが複数存在した場合は、上記画面のように1行に集約されます。

複数レベル名の行を出力して連携を進めた際の CADECT で表示される階名は、【連携レベル名】で指定します。

部屋境界

部屋の境界基準を設定します。出力する部屋形状に影響します。

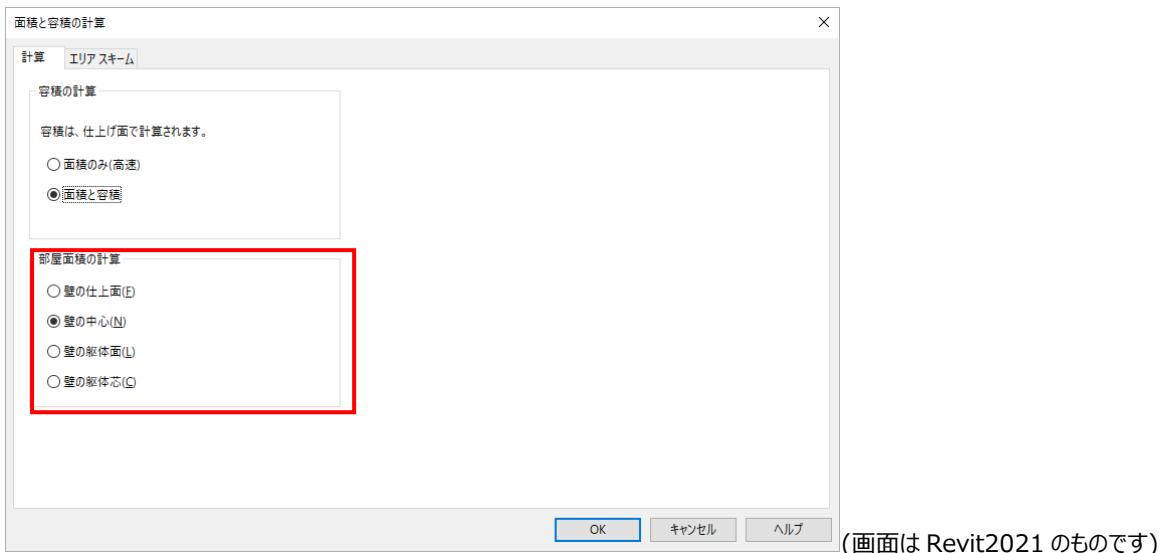


項目	説明
[壁の中心]	部屋の境界は、壁の中心線の位置になります。 Revit の[部屋/エリア]-[面積と容積の計算]-[部屋面積の計算]の「壁の中心」と同じ境界基準で出力されます。
[壁の躯体芯]	部屋の境界は、壁の躯体の中心線になります。 Revit の[部屋/エリア]-[面積と容積の計算]-[部屋面積の計算]の「壁の躯体芯」と同じ境界基準で出力されます。
[戻る]	前のタブに戻ります。
[次へ]	次のタブに進みます
[キャンセル]	画面を終了して Revit 画面に戻ります。

注)出力する空間モデルで「エリア」を選択した場合、上記の選択に関わらずエリア境界線を基準にモデリングされます。

部屋境界のデフォルト値について

Revit の[部屋/エリア] – [面積と容積の計算]-[部屋面積の計算]の設定により、デフォルト値を決定しています。

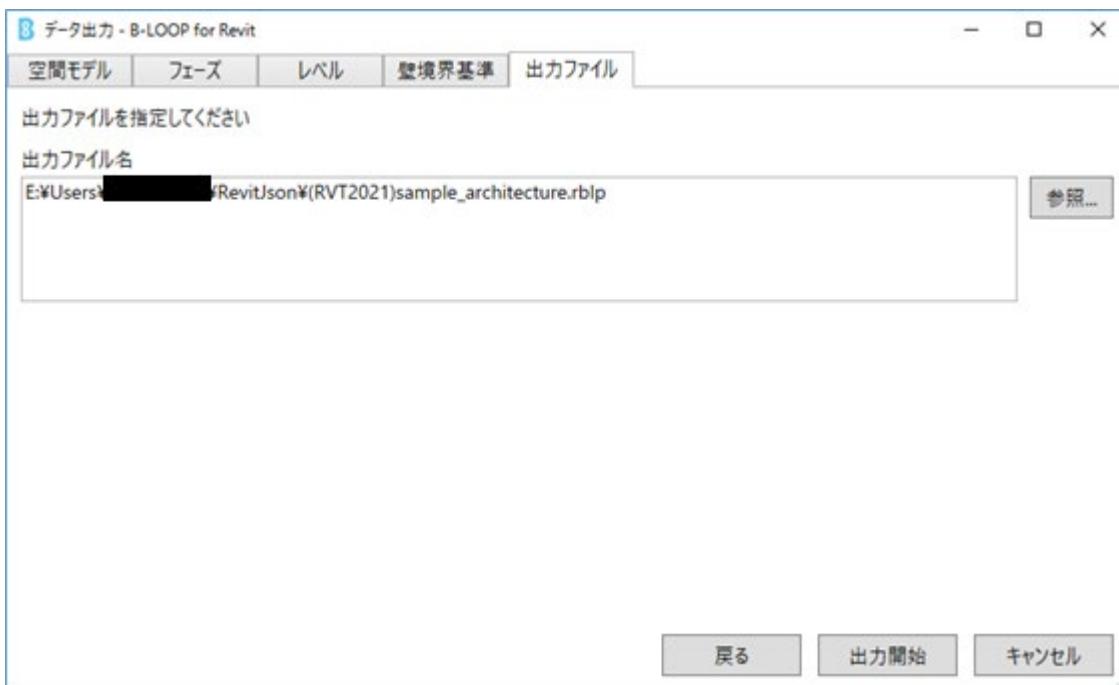


(画面は Revit2021 のものです)

Revit 部屋面積の計算の設定値	本アドインのデフォルト値
壁の仕上面	壁の中心
壁の中心	壁の中心
壁の躯体面	壁の躯体芯
壁の躯体芯	壁の躯体芯

出力ファイル

出力先のファイルを指定します。



項目	説明
[出力ファイル名]	rblp ファイルの出力先フォルダパスとファイル名です。 手入力するか、参照ボタンよりファイル名選択画面から指定することができます
[参照...]	B-LOOP データの出力先ファイル名選択画面を表示します。 ファイル名に拡張子を指定しない場合、自動的に「.rblp」が拡張子となります。
[戻る]	前のタブに戻ります。
[出力開始]	B-LOOP データ出力を実行します。 出力ファイル指定に表示されたパスに、B-LOOP データが出力されます。
[キャンセル]	画面を終了して Revit 画面に戻ります。

B-LOOP データをインポート

B-LOOP データをインポートで、B-LOOP 連携しているアプリのデータを Revit に取り込むことができます。



事前準備

blpr データのダウンロード

B-LOOP ポータルより、B-LOOP for Revit で読み取可能なデータ (.blpr) をダウンロードします。

ソフトウェアランチャーメニューの[Revit] > [DL] をクリックしてダウンロードしてください。



RUG ファミリのダウンロードと共有パラメータ取り込みの流れ

RUG 公式ページより必要なファイルをダウンロードし、本ソフトで使用するための設定をします。

RUG ファミリを
ダウンロードします。

- 以下の URL より、「Revit 2024※版 設備ファミリ ver2.0 Part1 機械設備」をダウンロードします。
<https://bim-design.com/rug/library/>
※版数はお使いの RevitVer に読み替えてご利用ください。
※ダウンロードの詳細は「[設備ファミリダウンロードの手順](#)」をご参照ください。



Revit 2025 をお使いの場合

2025/9/1 時点で 2025 版 RUG ファミリは公開されていません。

Revit2025 をお使いの場合は対応する RUG ファミリがないため、

2024 版をコピーまたはダウンロードのうえ、アップデートしてご利用ください。

アップデートの手順は後述します。

2025 版 RUG ファミリ公開後は、2025 をダウンロードしてご利用ください。

共有パラメータを
ダウンロードします。

- ・ RUG ファミリと同じ URL より、「共有パラメータ_設備 ver2.0」をダウンロードします。機器配置のために必要です。
<https://bim-design.com/rug/library/>
※全 RevitVer 共通です



B-LOOP for Revit を
開きます。

- ・ もう一度 Revit の 操作に戻ります。
Revit を閉じていた場合は再度立ち上げ、B-LOOP for Revit の
[機能を有効にする]を実行してください。



[rfa ファイルのアップデート]で
RUG ファミリを Revit 2025 で
使用可能にします

※**Revit 2025 を使い始める方（初回）のみ実行してください※**

ダウンロードした Revit 2024 版 RUG ファミリを、
Revit 2025 版にアップデートします。
詳細は「[rfa ファイルのアップデート](#)」をご確認ください。



※Revit 2025 版 RUG ファミリ公開までの暫定措置として、
本機能を実装しています。2025 版 RUG ファミリ公開後は、
2025 版をダウンロードし、本手順をスキップしてください。
<https://bim-design.com/rug/library/>

[オプション]で RUG ファミリの場
所を指定します

- ・ ダウンロードした RUG ファミリの「機械設備」の保存場所を
「オプションダイアログ」で指定します。
詳細は「[Revit User Group\(MEP\) ジェネリックファミリ「機械設備」パスの
設定手順](#)」をご確認ください。

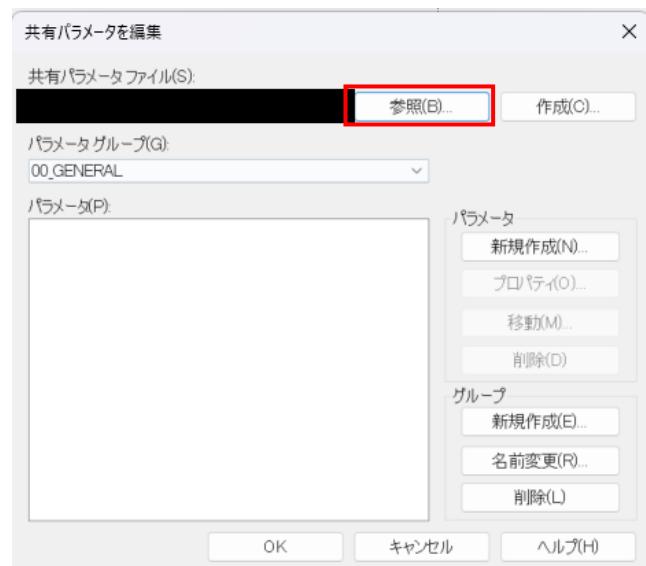


[共有パラメータ]を
Revit 機能で取込



- ・ダウンロードした「共有パラメータ_設備 ver2.0」を、Revit の機能で読み込みます。

([管理] > [共有パラメータ] > [参照] で
ダウンロードした 共有パラメータファイル を指定)



[共有パラメータの
追加、更新]

- ・[ツール] > [共有パラメータを追加、更新] を押下します。
- ・開いている Revit 物件に対して、連携に必要な共有パラメータ（スペースパラメータと機器配置用のパラメータ）を追加します。



設備ファミリダウンロードの手順

RUG 公式ページより機械設備ファミリをダウンロードして、使用可能な状態にする手順です。

注意

複数の Revit バージョンをお使いの方は Revit のバージョン分ダウンロードが必要です。 (以下例参照。)

Revit 2025 をご利用中で 2025 版設備ファミリが公開されていない場合の対応方法は、

[「rfa ファイルのアップデート」](#)をご参照ください。

(例) Revit 2023, Revit 2024, Revit 2025 の 3 バージョン

Revit Ver.	任意の格納場所以降のフォルダパス
2023	¥RUG_MEPM_family_Part1_Mechanical_2023_v2.0¥4_機械設備¥機械設備
2024	¥RUG_MEPM_family_Part1_Mechanical_2024_v2.0¥4_機械設備¥機械設備
2025	¥RUG_MEPM_family_Part1_Mechanical_2025_v2.0¥4_機械設備¥機械設備

手順 1

以下 RUG 公式ページより機械設備ファミリをダウンロードします。

<https://bim-design.com/rug/library/>

以降、「Revit 2024 版 設備ファミリ ver2.0 Part1 機械設備」を「ダウンロード」した場合を例に説明します。

版数は、お使いの Revit Ver. に読み替えてご利用ください。

設備(MEP)ジェネリックファミリ

※ ジェネリックファミリに入力されたパラメーターは参考値です。

プロジェクトで利用する際には、値を見直して活用して下さい。

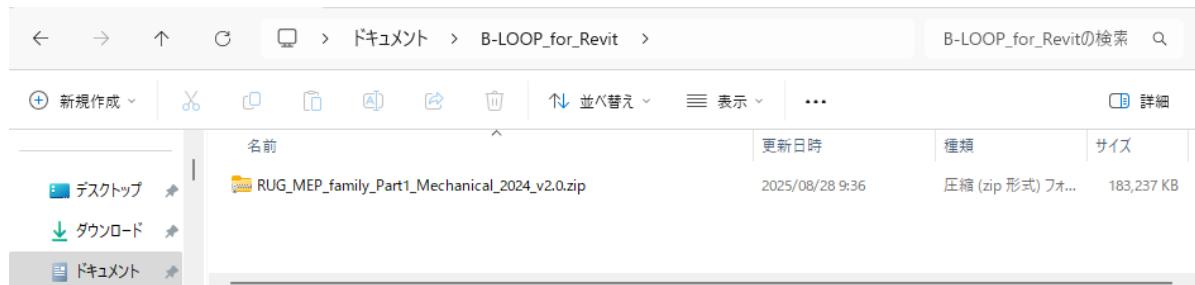


※2025/9/1 時点閲覧の参考画像です。

※ダウンロード実行後に同意画面などが表示される場合は、同意する選択で進めてください。

手順 2

ダウンロードした ZIP ファイルを任意の場所に移動します。



※サンプル画像では、「ドキュメント」フォルダ内に用意した「B-LOOP_for_Revit」フォルダへ移動しています。

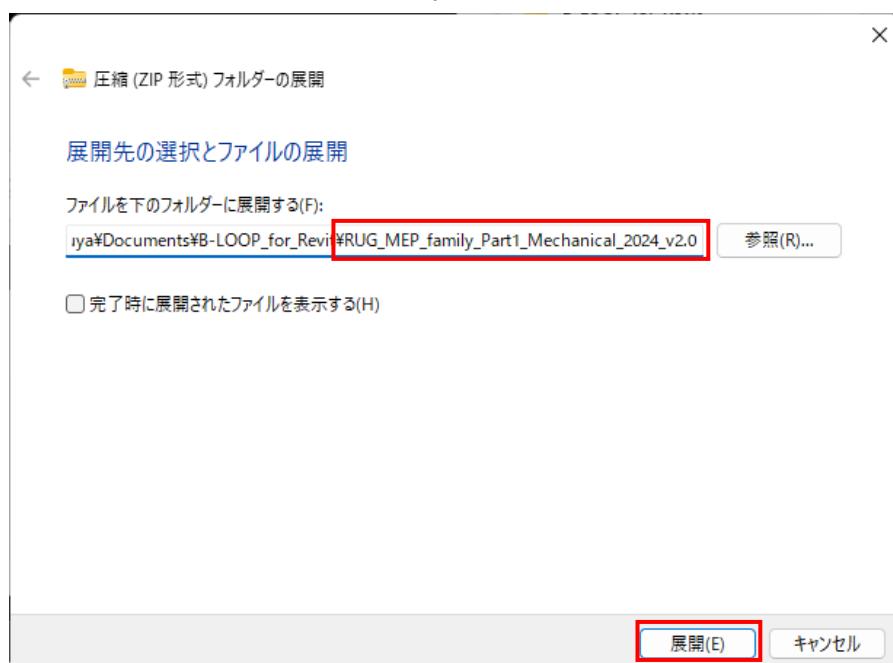
手順 3

ZIP ファイルを展開（解凍）します。



↓

フォルダ名の最後が「RUG_MEPM_family_Part1_Mechanical_2024_v2.0」になっていることを確認して展開します。



※お使いの展開（解凍）ソフトにより、画面イメージや表示名が異なる場合がございます。

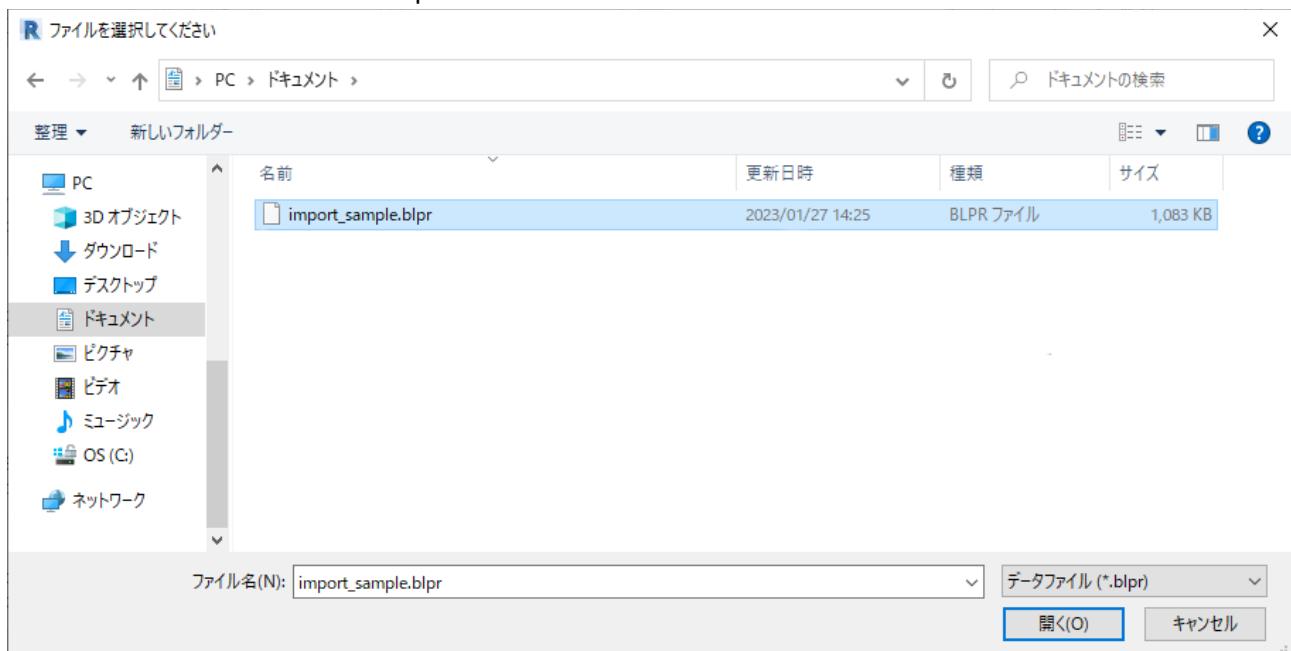
※サンプル画像は Windows11 標準搭載の「すべてを展開」コマンドです。

ファイルの選択

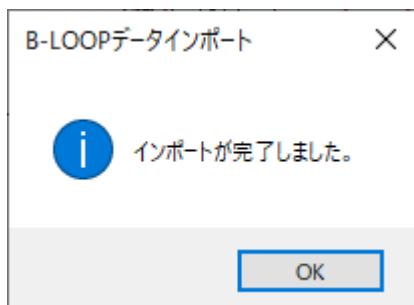


Revit にインポートするファイルを指定します。

ファイル選択ダイアログが開きます。.blpr ファイルを選択してください。



正しくインポートが完了すると以下のメッセージが表示されます。

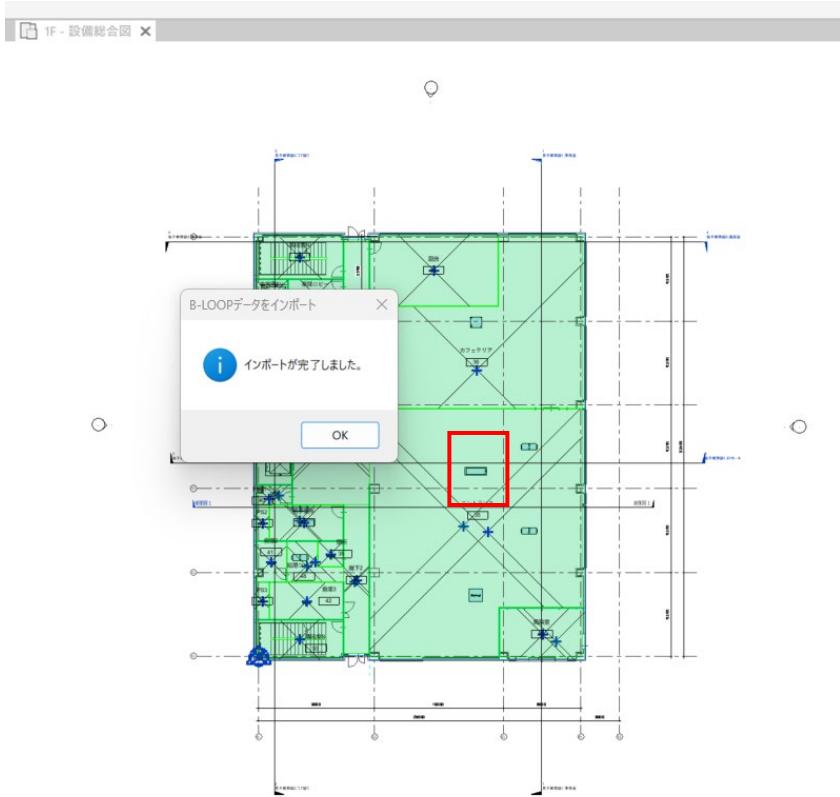


SeACD2 で選定していた場合、RUG の機械設備がスペースに配置されます。

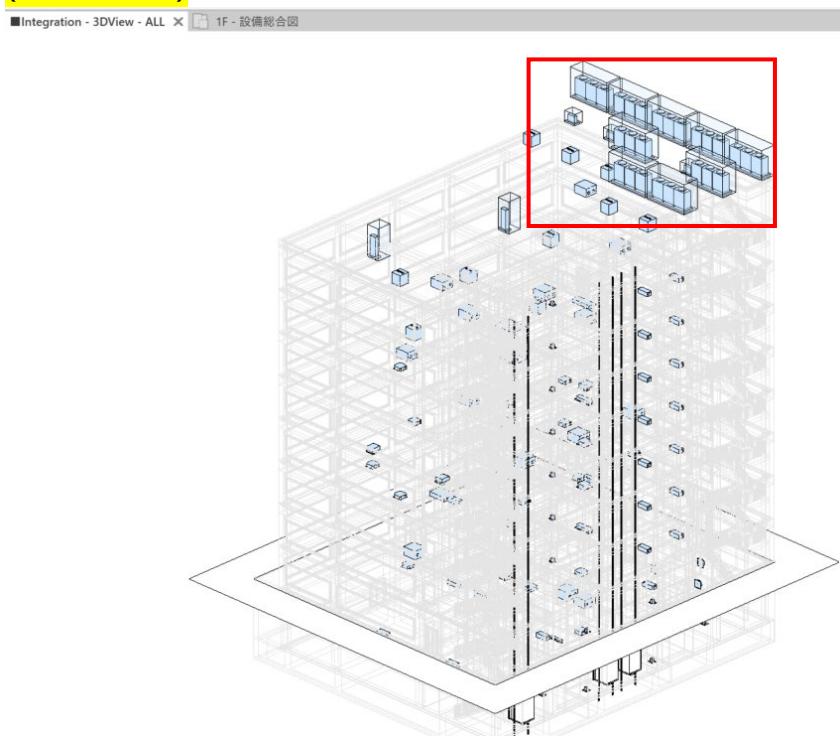
(注: 天埋・天吊で選択した機器は平面図では確認できないことがあります。

平面図で見えない場合は、3D ビューや断面図を利用してご確認ください。)

SeACD2 で選定していない場合は、スペースに項目をインポートのみ行います。



(3D ビューの例)



インポート項目

スペースにインポートされる項目

[B-LOOP データをインポート]でスペースにインポートされる項目は下記の通りです。

スペース	説明	CAD ECT	SeACD	A4
レベル	スペースの所属する階層の名称が入ります。	○	○	○
名前	スペースの名称が入ります。	○	○	○
番号	スペースの番号が入ります。	○	○	○
床面積	スペースの床面積値の合計が入ります。建物諸元表の「延床面積」とは異なります。	○	○	○
条件タイプ	スペースの空調負荷区分が入ります。	○	○	○
天井高_長さ	スペースの天井高の値が入ります。	○	○	○
人員密度	スペースの単位面積当たりの平均人数が入ります。	○	○	○
人数	スペースの 1 時間当たりの平均人数が入ります。	○	○	○
設計冷房温度	スペースの設計冷房温度が入ります。	○	○	○
設計冷房湿度	スペースの設計冷房湿度が入ります。	○	○	○
設計暖房温度	スペースの設計暖房温度が入ります。	○	○	○
設計暖房湿度	スペースの設計暖房湿度が入ります。	○	○	○
外気量	スペースの外気量が入ります。	○	○	○
換気方式	スペースの換気方式を数値で表した値が入ります。 1:第一種/2:第二種/3:第三種/それ以外:方式なし	○		○
換気回数	スペースの一時間の換気回数が入ります。	○		○
単位風量	スペースの外気量を人数で割った値が入ります。※一人当たりの外気量と共通の値	○	○	○
1 人当たりの外気量	スペースの外気量を人数で割った値が入ります。※単位風量と共通の値	○	○	○
単位面積照明負荷	スペースの照明負荷を面積で割った値が入ります。	○	○	○
人体顯熱	スペースの人体負荷顯熱の値が入ります。	○	○	○
人体潜熱	スペースの人体負荷潜熱の値が入ります。	○	○	○
単位面積OA負荷	スペースの単位面積当たりの OA 機器の消費電力負荷の値が入ります。	○	○	○
給気量	B-LOOP 連携アプリで計算されたスペースの給気量が入ります。			○

スペース	説明	CAD ECT	S SeACD	A4
排気量	B-LOOP 連携アプリで計算されたスペースの排気量が 入ります。		○	
時刻別冷房 SH	B-LOOP 連携アプリで計算されたスペースの 9 時から 16 時の時刻別冷房顕熱負荷(SH)値をセミコロン 「;」で繋いだ値(9 時;12 時;14 時;16 時)が入りま す。		○	○
冷房 SH9 時	B-LOOP 連携アプリで計算されたスペースの各時刻の 冷房顕熱負荷(SH)値が入ります。		○	○
冷房 SH12 時			○	○
冷房 SH14 時			○	○
冷房 SH16 時			○	○
冷房 SH	B-LOOP 連携アプリで計算されたスペースの熱負荷 合計が最大となる時刻の冷房顕熱負荷(SH)値が入 ります。※熱負荷合計が最大となる時刻の判定につい ては情報を参照してください。		○	○
時刻別冷房 LH	B-LOOP 連携アプリで計算されたスペースの 9 時から 16 時の時刻別冷房潜熱負荷(LH)値をセミコロン 「;」で繋いだ値(9 時;12 時;14 時;16 時)が入りま す。		○	○
冷房 LH9 時	B-LOOP 連携アプリで計算されたスペースの各時刻の 冷房潜熱負荷(LH)値が入ります。		○	○
冷房 LH12 時			○	○
冷房 LH14 時			○	○
冷房 LH16 時			○	○
冷房 LH	B-LOOP 連携アプリで計算されたスペースの熱負荷 合計が最大となる時刻の冷房潜熱負荷(LH)値が入 ります。※熱負荷合計が最大となる時刻の判定につい ては情報を参照してください。		○	○
冷房 TH	B-LOOP 連携アプリで計算されたスペースの熱負荷 合計が最大となる時刻の冷房全熱負荷 (TH)値が 入ります。※熱負荷合計が最大となる時刻の判定に ついては情報を参照してください。		○	○
暖房 SH	B-LOOP 連携アプリで計算されたスペースの冬期暖 房顕熱負荷(SH)値が入ります。		○	
暖房 LH	B-LOOP 連携アプリで計算されたスペースの冬期暖 房潜熱負荷(LH)値が入ります。		○	
暖房 TH	B-LOOP 連携アプリで計算されたスペースの冬期暖 房全熱負荷(TH)値が入ります。		○	○

スペース	説明	CAD ECT	S	A4
時刻別冷房外気負荷	B-LOOP 連携アプリで計算されたスペースの 9 時から 16 時の冷房外気負荷値をセミコロン「;」で繋いだ値 (9 時;12 時;14 時;16 時)が入ります。		○	○
冷房外気負荷 9 時	B-LOOP 連携アプリで計算されたスペースの各時刻の冷房外気負荷値が入ります。		○	○
冷房外気負荷 12 時			○	○
冷房外気負荷 14 時			○	○
冷房外気負荷 16 時			○	○
冷房外気負荷	B-LOOP 連携アプリで計算されたスペースの熱負荷合計が最大となる時刻の冷房外気負荷値が入ります。※熱負荷合計が最大となる時刻の判定については情報を参照してください。		○	○
暖房外気負荷	B-LOOP 連携アプリで計算されたスペースの冬期暖房外気負荷値が入ります。		○	○

情報

熱負荷合計が最大となる時刻の判定方法は以下のとおりです。

- 時刻別の負荷合計値を算出し、合計が最も大きい時刻を確認する

	9 時	12 時	14 時	16 時
室内負荷 冷房 SH	1000	2000	3000	4000
室内負荷 冷房 LH	2000	5000	4000	1000
外気負荷	4000	7000	9000	10000
合計	7000	14000	16000	15000

項目ごとの最大値ではなく、合計が最大となる時刻の各値を使用します。

- 合計が最大となる時刻の値を各負荷項目の値として設定する

冷房 SH	3000
冷房 LH	4000
冷房 TH	7000
冷房外気負荷	9000

冷房 TH は冷房 SH と冷房 LH の合計で算出します。

機械設備にインポートされる項目

[B-LOOP データをインポート]で機械設備にインポートされる項目は

以下ページより、SeACD2 データ変換対応表の [換気機器選定],[空調機器選定] の項をご確認ください。

https://manual.isp-b-loop.com/manual/SeACD/CADECT_SeACD2%20%20%E3%83%87%E3%83%BC%E3%82%BF%E5%A4%89%E6%9F%9B%E5%AF%BE%E5%BF%9C%E8%A1%A8.pdf

注意

SeACD2 で選定した機器を Revit にプロットする際、

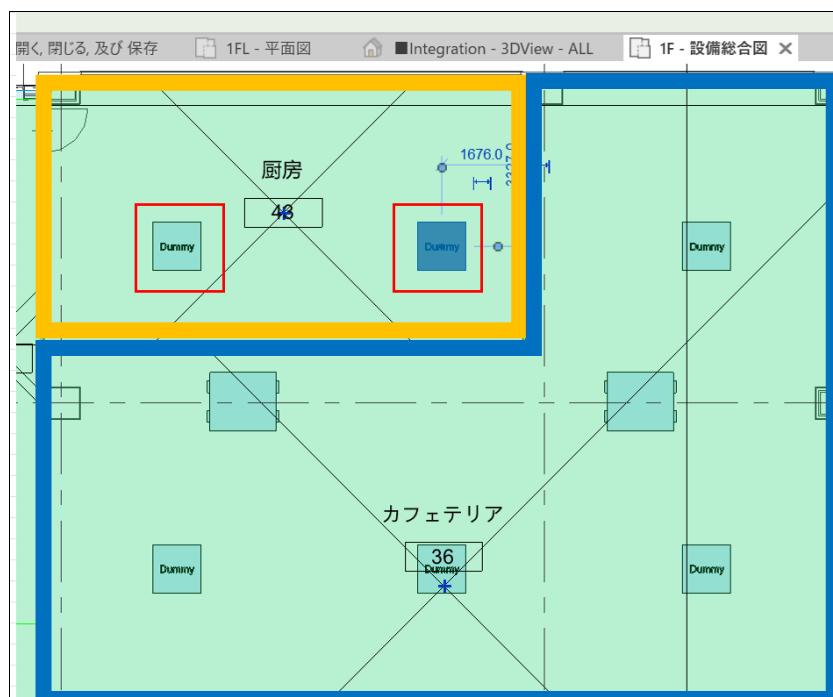
スペースの形状によって、一部の機械設備がスペースからはみ出して配置されることがあります。

プロットが完了した機械設備は、Revit 上で移動が可能ですので、配置位置を調整してご利用ください。

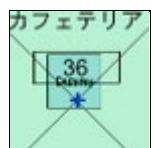
例：

下図のような L 字型のカフェテリア（青枠）に、6 台の機械設備（名称：Dummy）を配置する。

⇒ 廉房（黄色枠）に配置されているような表示になる。



※ 今後の改修で、スペースからはみ出してしまった機器を
スペースの中心(+)マークにプロットするよう対応予定です。
その際も Revit にて、機械設備を任意の場所に移動してご利用ください。



注意

機械設備をインポートする際、同名のファミリが既に読み込まれている場合※

共有サブコンポーネント ファミリとそのパラメータ値を、(アドインが読み込むファミリ)のバージョンで上書きします
(Revit で同じ操作を行った場合のダイアログの中央の選択肢「相当の内容を実行します。」)



※ 一度連携済みで再度連携し直そうとした場合と手動で同名ファミリを読み込んだ場合のいずれも含みます。

補足(スペース・機械設備共通)

注意

- 各パラメータは Revit 上で編集することができますが、
編集した値によっては計算条件および、計算結果などの整合性が取れなくなる場合があります。
- Revit への戻し(書き込み)について、リンクファイルは対象外となります。
そのため、設備モデルが複数に分かれている場合は各モデルでインポートが必要となります。

ツール

共有パラメータの追加更新

Revit モデル内の各スペースに負荷計算の計算条件、および計算結果の負荷値などを格納するための共有パラメータを追加します。旧バージョンで追加されたパラメータが残っている場合はここで削除できます。追加される共有パラメータは以下のとおりです。



スペース	
天井高_長さ	時刻別冷房 SH
人員密度	冷房 SH9 時
人数	冷房 SH12 時
設計冷房温度	冷房 SH14 時
設計冷房湿度	冷房 SH16 時
設計暖房温度	冷房 SH
設計暖房湿度	時刻別冷房 LH
外気量	冷房 LH9 時
換気方式	冷房 LH12 時
換気回数	冷房 LH14 時
単位風量	冷房 LH16 時
1 人当たりの外気量	冷房 LH
単位面積照明負荷	冷房 TH
人体顯熱	暖房 SH
人体潜熱	暖房 LH
単位面積OA負荷	暖房 TH
給気量	時刻別冷房外気負荷
排気量	冷房外気負荷 9 時
	冷房外気負荷 12 時
	冷房外気負荷 14 時
	冷房外気負荷 16 時
	暖房外気負荷

部屋・スペースからエリアに「名前」「番号」を追加

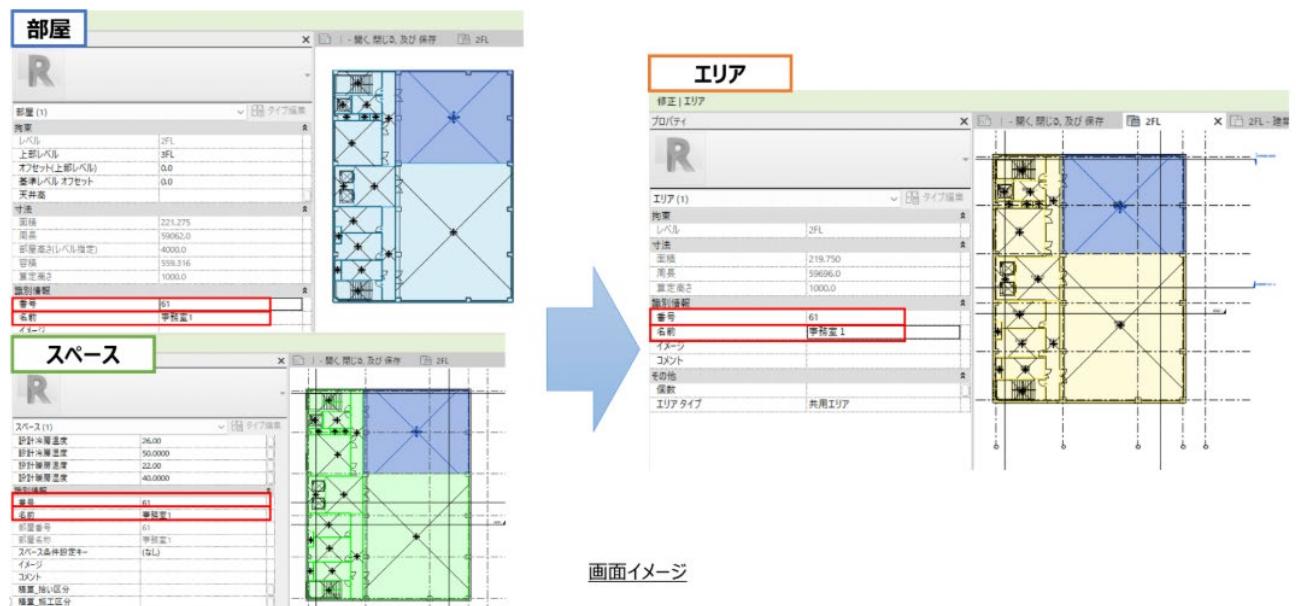
Revit モデル内の指定したエリアスキームの全てのエリアに、部屋またはスペースの「名前」「番号」を追加します。



「エリア名前設定」ダイアログが表示されるため、連携先となるエリアスキーム名と連携元となる部屋またはスペースの連携項目を選択し実行します。



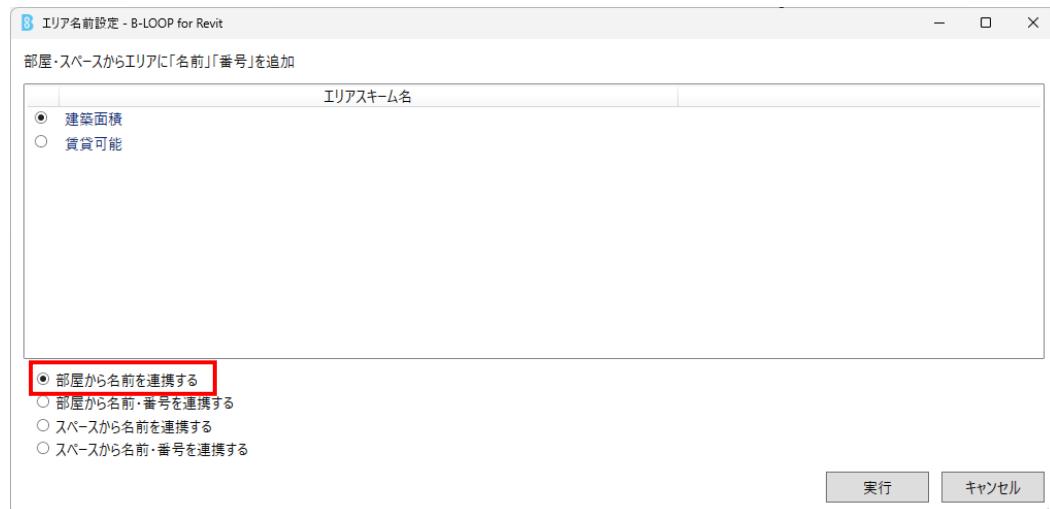
実行後、選択した連携項目に応じ連携元の部屋またはスペースの情報が、連携先のエリアへ追加されます。



選択可能な連携項目は以下の 4 通りです。

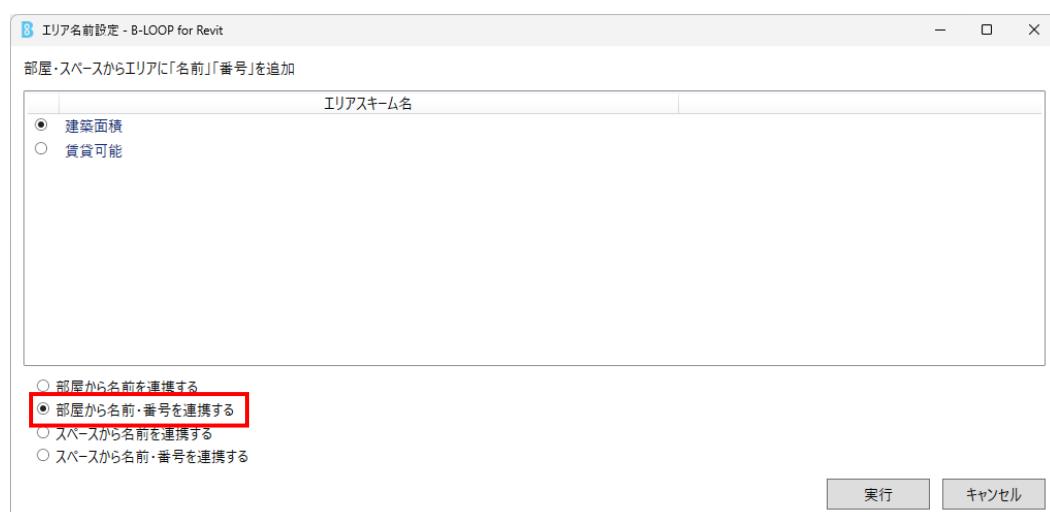
・部屋から名前を連携する

部屋に設定した「名前」を Revit モデル内の指定したエリaskームの全てのエリアに連携します。



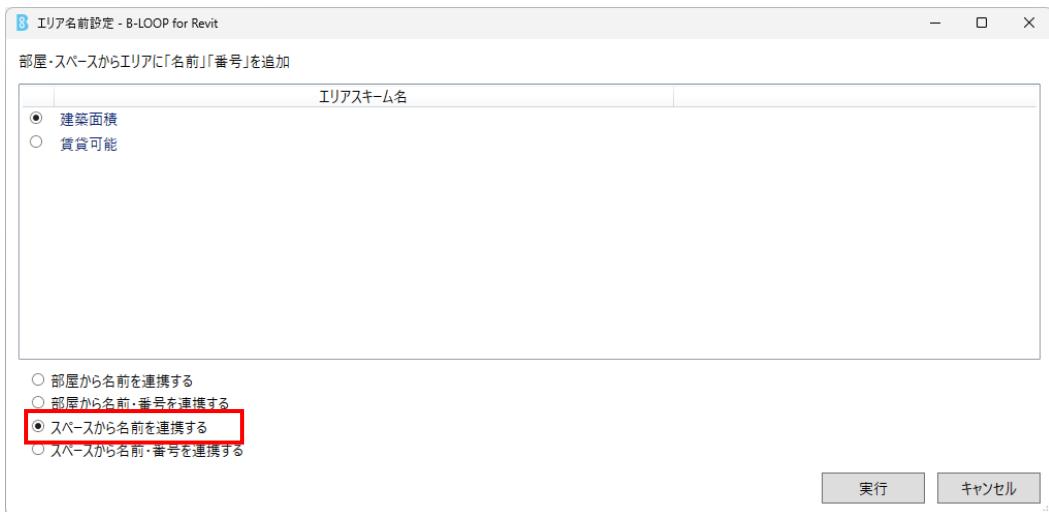
・部屋から名前・番号を連携する

部屋に設定した「名前」「番号」を Revit モデル内の指定したエリaskームの全てのエリアに連携します。



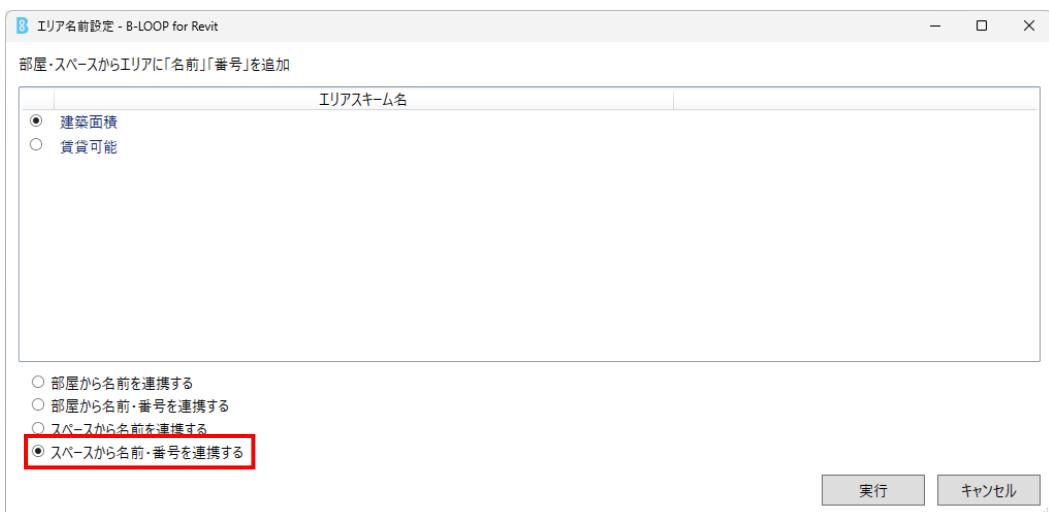
・スペースから名前を連携する

スペースに設定した「名前」を Revit モデル内の指定したエリアスキームの全てのエリアに連携します。



・スペースから名前・番号を連携する

スペースに設定した「名前」「番号」を Revit モデル内の指定したエリアスキームの全てのエリアに連携します。



部屋・スペースとエリアの紐付け条件

次の 3 つの条件を全て満たす場合に、連携元の部屋またはスペースと連携先のエリアが紐付けられ、選択した連携項目が連携されます。

- ① 同じレベルであること
- ② 領域の重なりが一定以上であること
※面積に応じて 70%～90%以上が重なっていると判定された場合
- ③ 部屋・スペースの Location がエリア内に位置していること

注意

- ・連携対象エリアを選択することはできません。Revit モデル内の指定したエリaskームの全てのエリアが対象です。
- ・連携先となるエリアは、Revit データ元のエリアのみが対象です。Revit リンクを追加している場合でも、Revit リンク先のエリアは対象外のため連携されません。
- ・連携元の部屋またはスペースは、Revit データ元および Revit リンク先も対象です。なお、Revit データ元と Revit リンク先で同一の連携先エリアが検出された場合は、Revit データ元の情報が連携されます。

連携結果

連携結果に応じ、次のメッセージが表示されます。

また、連携に成功・失敗したエリアがある場合は、枠内に連携先のエリア情報と連携元の部屋またはスペース情報が表示されます。枠内に表示されているテキストはコピーが可能です。

連携結果	メッセージ
エリアを検出できなかった場合	<p>エリアを検出できませんでした。</p> 
検出された全てのエリアで連携に成功した場合	<p>すべてのエリアで設定がきました。</p>  <p>※全てのエリアで「OK」と表示される</p>

検出されたエリアの中で 連携に失敗したエリアがある場合／ 検出された全てのエリアで 連携に失敗した場合	設定のできなかったエリアがありました。  ※連携に失敗したエリアで「NG」と表示される
--	---

エラーリスト

連携に失敗したエリアは、エリア情報のあとにエラー内容が表示されます。

表示されるエラー内容および対処方法は次のとおりです。

エラー内容	対処方法
① エリア境界認識エラー	エリア境界が認識できないまたはエリアが検出できませんでした。 エリアが正しく配置されているか、不要なエリアが残っていないか確認してください。
② 部屋検出せず	エリアに紐付く部屋が検出できませんでした。 『部屋・スペースとエリアの紐付け条件』を満たしているか、部屋が正しく配置されているか確認してください。
③ スペース検出せず	エリアに紐付くスペースが検出できませんでした。 『部屋・スペースとエリアの紐付け条件』を満たしているか、スペースが正しく配置されているか確認してください。

rfa ファイルのアップデート

本機能は起動中の Revit のバージョンよりダウンロードした設備ファミリのバージョンが古い場合に、設備ファミリのバージョンを起動中の Revit のバージョンにアップデートする機能です。

※Revit 2025 以降でご利用いただけます。

例) Revit 2025 で Revit2024 用の設備ファミリを使用する場合

なお、本機能を実行する際は、あらかじめ Revit の物件ファイルを保存することを推奨しております。

注意

本操作にて、RUG ファミリファイルが上書きしてアップデートされます。

Revit 2024 で使用していたフォルダを指定した場合、RUG ファミリファイルは Revit 2025 用にアップデートされ、Revit 2024 では使用できなくなります。

Revit 2024 も継続して使用する必要がある場合、必ず本手順のとおりフォルダをコピーしてアップデートを実行してください。

なお、

手順 1

設備ファミリが格納されている「RUG_MEPM_family_Part1_Mechanical_2024_v2.0」フォルダを複製します。

名前	更新日時	種類	サイズ
📁 RUG_MEPM_family_Part1_Mechanical_2024_v2.0	2025/08/25 15:02	ファイル フォルダー	
📁 RUG_MEPM_family_Part1_Mechanical_2024_v2.0 - コピー	2025/08/26 10:01	ファイル フォルダー	

※2024 の設備ファミリが未ダウンロードの場合、

以下の URL より、「Revit 2024 版 設備ファミリ ver2.0 Part1 機械設備」をダウンロードしてください。

<https://bim-design.com/rug/library/>

ダウンロードの詳細手順は「設備ファミリダウンロードの手順」をご参照ください。

手順 2

複製したフォルダ名を以下のとおり変更します。

(変更前) 「RUG_MEPM_family_Part1_Mechanical_2024_v2.0 のコピー」

(変更後) 「RUG_MEPM_family_Part1_Mechanical_2025_v2.0」

名前	更新日時	種類	サイズ
📁 RUG_MEPM_family_Part1_Mechanical_2024_v2.0	2025/08/25 15:02	ファイル フォルダー	
📁 RUG_MEPM_family_Part1_Mechanical_2025_v2.0	2025/08/26 10:01	ファイル フォルダー	

※新しくダウンロードした 2024 の設備ファミリを使用する場合、上記（変更後）のフォルダ名に変更してください。

注意

次の手順よりアップデートの処理を実行します。

アップデートには、100 ファイルあたり 5~10 分程度の時間がかかるため、アップデートを実行する前に Revit の物件ファイルを保存し、時間が十分に取れるタイミングで実行してください。

完了メッセージが表示されるまで、Revit の操作はお控えください。

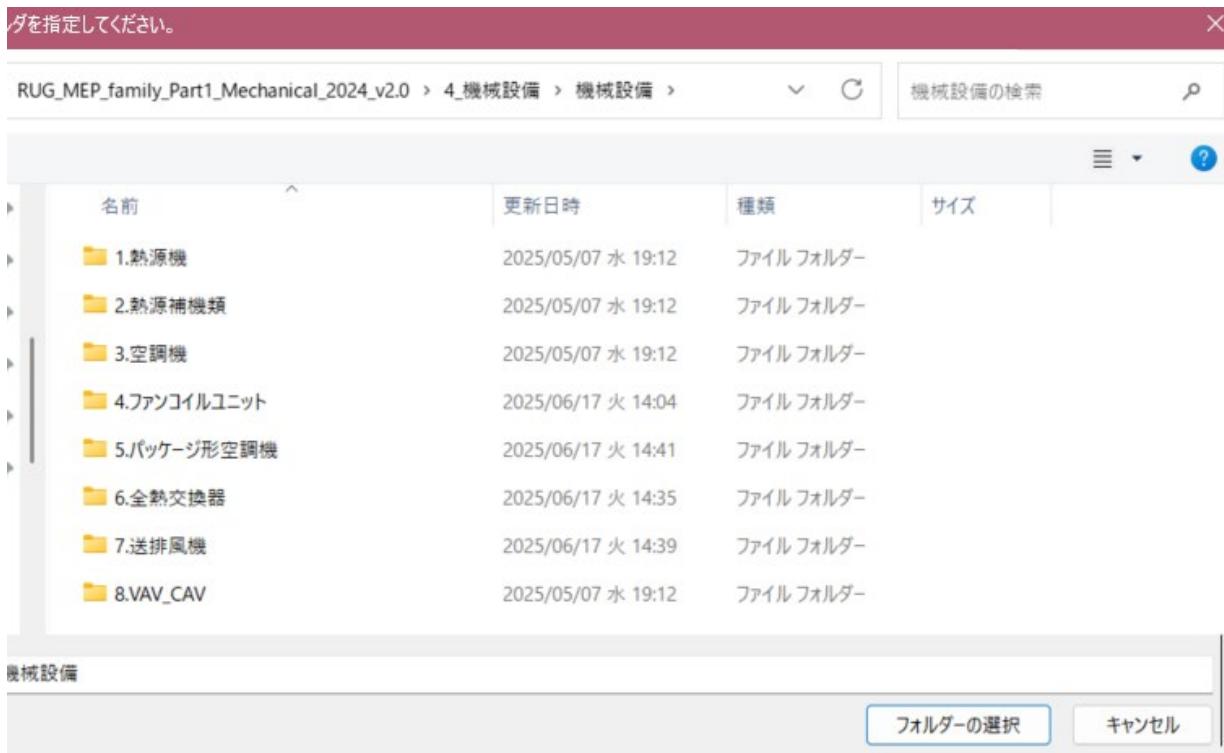
手順 3

「ツール」より、「rfa ファイルのアップデート」を選択します。



手順 4

手順 2 までで作成した「RUG_MEPE_family_Part1_Mechanical_2025_v2.0」フォルダを、「4_機械設備」、「機械設備」と展開し、「フォルダーの選択」を押します。

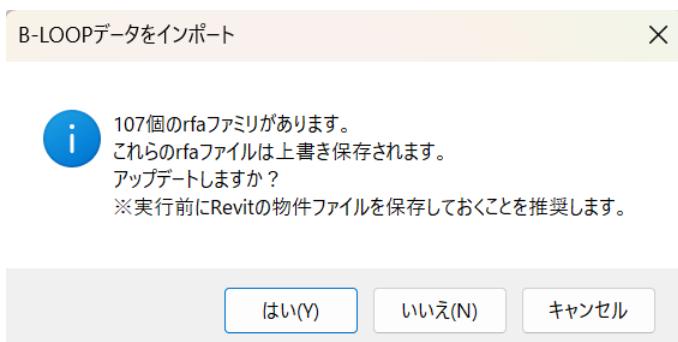


手順 5

選択すると、確認画面が表示されます。

確認画面で「はい」を押すと、選択したフォルダの配下にある「.rfa」ファイルをすべてアップデートします。

Revit の物件ファイルを保存していない場合は「いいえ」を選択して戻り、保存を実行後に手順 6へ進んでください。



手順 6

処理中は以下画像が表示されます。

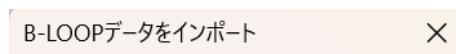


カーソルの表示は以下の状態になります。



↓

以下メッセージが表示されれば、処理は完了です。「OK」をクリックし、元の画面に戻ります。



変換処理が完了しました。
※Revitの再起動を推奨します。

OK

※「rfa ファイルのアップデート」を実行後は、Revit の再起動を推奨しています。

※設備ファミリを使用するためには、別途設定が必要です。

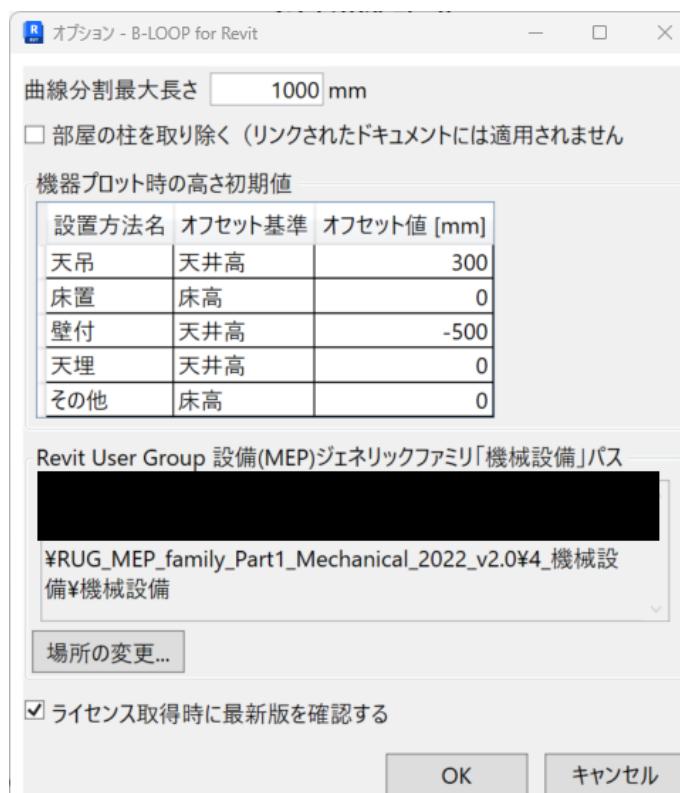
設定手順は、「Revit User Group(MEP) ジェネリックファミリ「機械設備」バスの設定手順」をご参照ください。

その他の画面

オプションダイアログ

Revit のリボンの[IzumiTools]-[B-LOOP for Revit]-[オプション]を押下すると、オプションダイアログが表示されます。

オプションダイアログでは、B-LOOP for Revit の動作に関する設定を行います。



項目	説明
[曲線分割最大長さ]	曲線を分割する際の最大長さを指定します。
[部屋の柱を取り除く（リンクされたドキュメントには適用されません）]	部屋に隣接する柱を、部屋の境界線として取り込むかを指定します。 ・チェック ON の場合 部屋に隣接する柱を無視した B-LOOP データを出力します。 ・チェック OFF の場合 部屋に隣接する柱を部屋境界の一部とみなした B-LOOP データを出力します。

項目	説明
機器プロット時の高さ初期値	<p>SeACD 2 で配置した機器の「据付方式」に従い機器の設置高の初期値を決定します。</p> <p>機器の下端（図の赤線部）が以下の位置になるよう配置されます。</p> <p>オフセット基準が天井高の場合（例では天吊・壁付・天埋）</p> <p>⇒ 設置階のレベル + 天井高 + オフセット値の位置</p> <p>オフセット基準が床高の場合（例では床置・その他）</p> <p>⇒ 設置階のレベル + オフセット値の位置</p> <p>《イメージ図》</p> <p>例: 天井高_長さ = 2600mm のスペースに対して 据付方式: 天吊(オフセット基準 天井高, オフセット値 -300mm) の機器を置く場合は、SeACD 2 の設置階からみて 2300mm の位置に機器を配置します。</p>

項目	説明
Revit User Group(MEP) ジェネリックファミリ「機械設備」パス	RUG 公式ページよりダウンロードした機械設備ファミリを B-LOOP for Revit で使用するため、ファイルの格納場所を指定します。 設定・変更は、[場所の変更...]ボタンから行います。 詳細な手順は「 Revit User Group(MEP) ジェネリックファミリ「機械設備」パスの設定手順 」をご参照ください。
[ライセンス取得時に最新版を確認する]	B-LOOP for Revit の起動（機能有効化）時に最新版更新プログラムの配信を確認するかの設定です。チェックありの場合自動で確認され、チェックなしの場合メニューから手動で確認する必要があります。 インストール後の初期値はチェックあり（自動で確認される設定）となっています。
[OK]	設定した内容を保存して、オプションダイアログを閉じます。
[キャンセル]	設定した内容を保存しないで、オプションダイアログを閉じます。

Revit User Group(MEP) ジェネリックファミリ 「機械設備」パスの設定手順

※本手順の前に、「[設備ファミリダウンロードの手順](#)」を実行しておく必要があります。

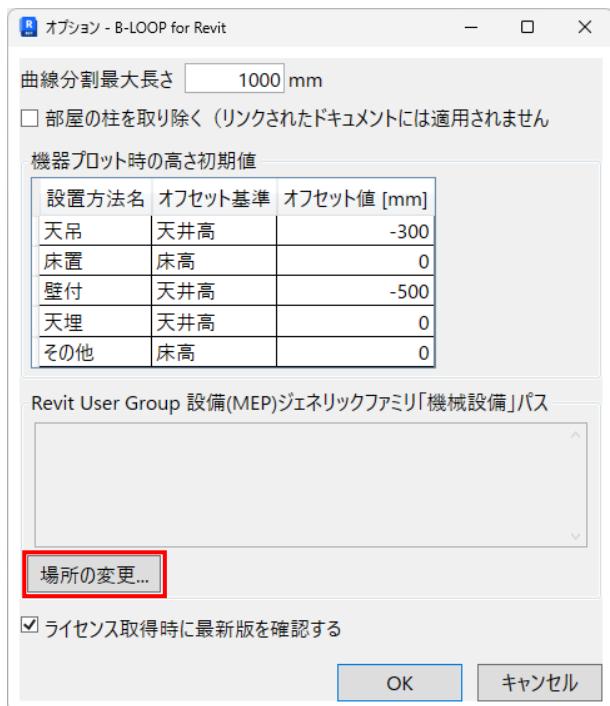
手順 1

Revit のリボンメニュー「IzumiTools」の「オプション」を開きます。



手順 2

「場所の変更...」を押します。



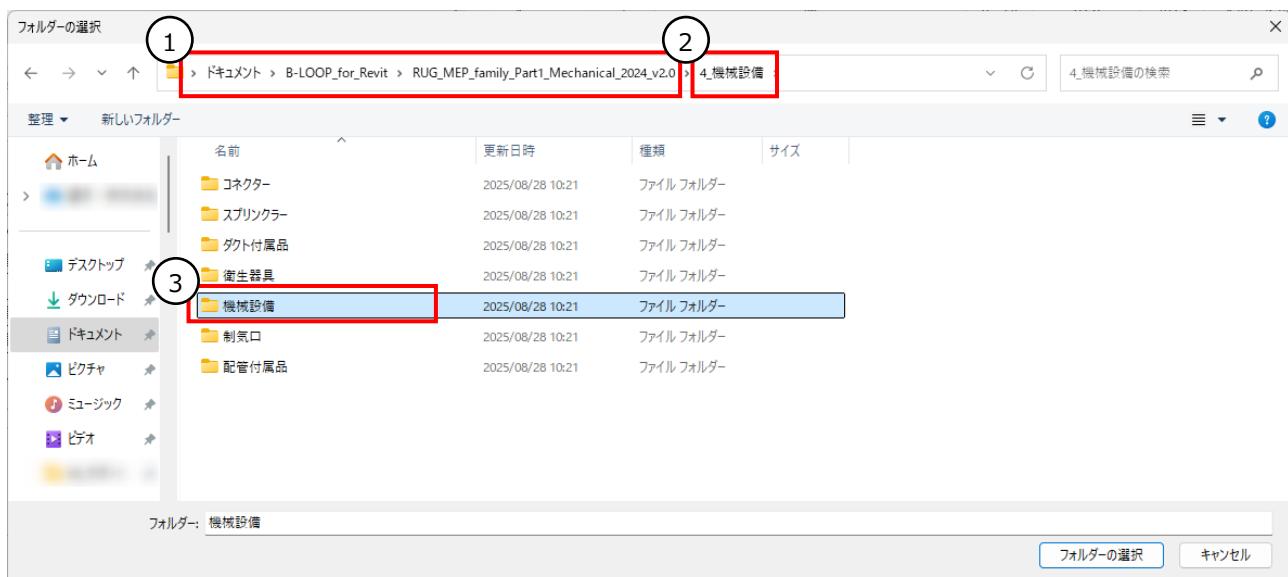
↓

エクスプローラーが開きます。

手順 3

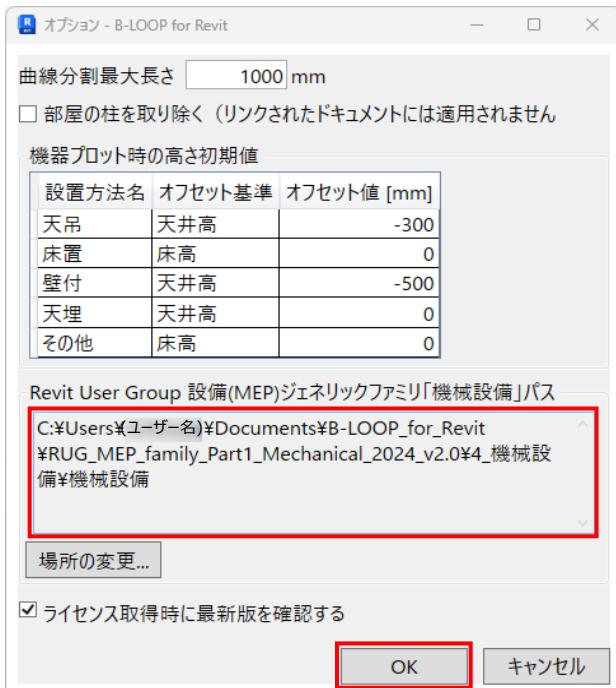
「設備ファミリダウンロードの手順」で展開（解凍）したフォルダ

「～¥ RUG MEP_family_Part1_Mechanical_2025_v2.0」(①) から「4_機械設備」(②)まで展開し、
「機械設備」(③)を選択して「フォルダーの選択」を押します。



手順 4

指定したパスが設定されたことを確認し、「OK」で閉じます。



情報

画像は、「[設備ファミリダウンロードの手順](#)」の手順 2 の例「ドキュメントフォルダ内に用意した B-LOOP_for_Revit に展開したフォルダ」を指定した場合のものです。フルパス（「C:\」などのドライブ名から「機械設備」まで）がセットされたため、以下のような表示になっていれば成功です。

例)

①Revit 2024 版 設備ファミリ ver2.0 Part1 機械設備をダウンロード・展開したフォルダを指定した場合

C:\¥Users\¥ (ユーザー名)\¥Documents\¥B-LOOP_for_Revit
¥RUG_MEPM_family_Part1_Mechanical_2024_v2.0\¥4_機械設備\機械設備

②[rfa ファイルのアップデート](#)に記載の手順で Revit 2025 用にアップデートしたフォルダを指定した場合

C:\¥Users\¥ (ユーザー名)\¥Documents\¥B-LOOP_for_Revit
¥RUG_MEPM_family_Part1_Mechanical_2025_v2.0\¥4_機械設備\機械設備

最新版の更新情報ダイアログ

Revit リボンメニューの[IzumiTools]-[B-LOOP for Revit]-[バージョン情報]-[最新版チェック]を選択すると、そのタイミングでインストールされているバージョンより新しいバージョンが公開されていた場合、以下[最新版の更新情報]ダイアログが表示されます。

[最新版の更新情報]ダイアログでは、B-LOOP for Revit の最新版バージョン番号や修正事項の確認、更新プログラムのダウンロードができます。



項目	説明
[現在のバージョン]	動作している B-LOOP for Revit のバージョン番号です。
[最新のバージョン]	更新対象となる B-LOOP for Revit のバージョン番号です。
[修正事項の表示...]	ウェブサイトの修正履歴ページが開きます。
[ダウンロード...]	押下することで更新プログラムをダウンロードします。
[ライセンス取得時に本プログラムの更新情報をチェックする]	B-LOOP for Revit の起動（機能有効化）時に最新版更新プログラムの配信を確認するかの設定です。チェックありの場合自動で確認され、チェックなしの場合メニューから手動で確認する必要があります。 インストール後の初期値はチェックあり（自動で確認される設定）となっています。 ※オプションダイアログの[ライセンス取得時に最新版を確認する]と同じ設定内容です。

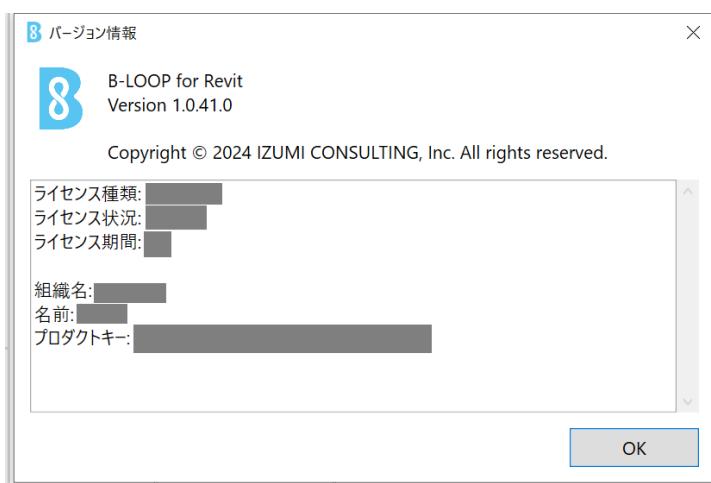
更新履歴

Revit のリボンメニューの[IzumiTools]-[B-LOOP for Revit]-[バージョン情報]-[更新履歴]を押下すると、過去バージョンから現バージョンまでの更新内容が確認できます。

バージョン情報ダイアログ

Revit のリボンメニューの[IzumiTools]-[B-LOOP for Revit]-[バージョン情報]-[バージョン情報]を押下すると、バージョン情報ダイアログが表示されます。

バージョン情報ダイアログでは、B-LOOP for Revit のインストール情報を確認できます。



項目	説明
[Version]	インストールされている B-LOOP for Revit のバージョン番号です。
[ライセンス種類]	ライセンスの種類が表示されます。 ・オンラインライセンス
[ライセンス状況]	現在のライセンスの状況が表示されます。 ・有効 ・無効 リボンメニューの[機能を有効にする]/[機能を無効にする]ボタンのライセンス取得状況で表示が変わります。
[ライセンス期間]	ライセンスの残り期間が表示されます。
[組織名]	インストール時に設定した所属名が表示されます。
[名前]	インストール時に設定したユーザー名が表示されます。
[プロダクトキー]	インストール時に設定したプロダクトキーが表示されます。